

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年12月



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年12月1日発行 通巻248号(毎月1回発行)

さあ！冬山シーズンだ。雪山・山スキー
無事故で楽しもう !!!

12月号 目次

・ 目次	2
・ 花博士の花便り	3
・ 松戸山の会テント泊教室報告	4
・ 松戸山の会山行報告	7
・ 第2回東葛地区交流山行	11
・ 事故防止交流集会報告	13
・ 「ゆう」便り	14
・ ボランティア報告	15
・ 財政活動のお知らせ	20
・ 12月県連便り	21
・ 12月・1月予定	22

11月号に続き、松戸山の会の山行報告を2件掲載しました。
9月号用にいただいたのですが、編集者のパソコントラブルで、
掲載できませんでした。チョット時期を外した掲載になりました。
(写真がセピア色になっているのはそのせいではありません。)

松戸山の会の皆さん、申し訳ありません。

- ※ ちばニュースは、山の会の機関誌らしく「山行・自然保護」などの記事を中心にしたいと思っています。
各会・クラブの会山行・個人山行を投稿して下さい。写真1・2枚つけて下さい。(A4、明朝12m、余白上下左右2, 5m)

事故防止交流会が船橋さざんかの家で開催されました。サザンカが咲いて、お茶の花とツワブキの花が咲いていました。この時期の千葉の山野で見られる花は、野菊の他に、ヤマハッカ、リンドウ、ダイモンジソウ、センボンヤリ、キッコウハグマなどです。

***オチャノキ (お茶の木) ツバキ科ツバキ属**

原産地は、中国の四川などから、中国より奈良時代に伝わったと言われていました。昔からお茶の時間として、煎茶が好まれますが、以外に知られてないのが花です。お茶の木は、新芽を摘み取る為に何回も木を傷めるために花が咲かないのです。私の故郷は、私が子供の頃からお茶の名産地で、自家用に庭の囲いなどにお茶が植えられ手作業で一番茶から三番茶を取り入れていました。摘み取ったあと剪定しない木に花が咲き実になりました。冬に実が弾けて、ツバキの種と同じように油を絞って利用されました、私も小遣い稼ぎに種を拾って買い取りの油工場に売りに行ったことを覚えています。

***ツワブキ キク科ツワブキ属**

海岸近くの崖などに咲きます、花や葉が美しいので、庭に植えられます。葉に艶があるので、この名がついた、斑入りの園芸種があり、若い葉柄をキャラブキにして食べます。

***センボンヤリ (1千本槍) キク科 センボンヤリ属**

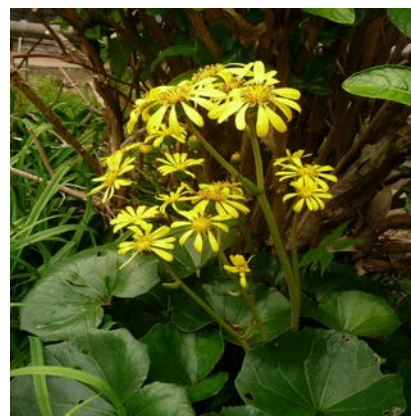
春にタンポポに似た花を咲かせることからムラサキタンポポと呼ばれます。秋の花は、閉鎖花(花が開かない)で蕾の状態です。この状態が大名行列の木槍に似ていることから名が付けました、春と秋に花穂を付ける面白い植物です。

***イズノシマダイモンジソウ (伊豆の島大文字草) ユキノシタ科ユキノシタ属**

大の字に似た花が咲きます。イワタバコに似た花が咲きます。イワタバコの咲く崖などで見られ、葉や茎に毛が多いのが特徴です。



お茶の木



ツワブキ



センボンヤリ



伊豆の大文字草

槍ヶ岳(テント教室)

新穂高温泉～槍平～槍ヶ岳

日程：8月9日(金)～11日(日)

メンバー：CL 大越 直樹

SL 長谷 杏子

小林 美智子

藤 正幸 (記)

コースタイム

8月9日：

新穂高温泉 13:00/13:30－穂高平避難小屋 14:35/14:42－R 15:20/15:30－白出小屋 15:40－滝谷避難小屋 17:10－槍平テニ場 18:35

8月10日：

槍平テニ場 5:10－R 5:40/5:50－R 6:35/6:50－飛騨乗越 9:25/10:05－槍ヶ岳 9:25/10:05－大喰岳 11:30/11:40－飛騨乗越 12:05/12:20－分岐 13:20/13:30－R 13:40/14:00－槍平テニ場 15:40

8月11日：

槍平テニ場 5:30－滝谷避難小屋 6:20/6:30－白出小屋 7:55/8:05－穂高平避難小屋 8:40/8:50－新穂高温泉 9:35

費用：

車使用料 25,360円 高速代 8,350円、テニ場 4,000円、駐車場代 4,000円 ガス・食費 6,840円 テント使用料 1,200円 合計 49,750円 /12,440円/人

これまでさしての登山経験も無いまま、6月に入会し、新人として初心者マークが付いている現状でありながらの槍ヶ岳挑戦でした。初めての北アルプス、初めてのテニ泊、初めての2泊3日登山、自身にとって大きなチャレンジの場となりました。

不安いっぱい山行でしたが、天気にも恵まれ、無事山頂に立てたことは、私自身にとって、大変有益な経験となりました。

8月9日、晴

松戸駅を出発し、渋滞の首都高にいらいらしながらも、ほぼ予定通りに新穂高温泉に到着、装備確認の後、13時30分に槍平テニ場に向け新穂高温泉を出発しました。

しばらくは林道を歩く。その間、狭い林道を工事車両が絶えず通過し、登山者には危険な幅いっぱいの車両通過です。山道に入る直前の沢に堤防を構築中でした。その林道を歩くこと約2時間、いよいよ山道に入ります。すでにテニ泊での重いザックが肩にズシ。ここから槍平テニ場まで2時間半はまだまだ山脚の出来ていない自身にとっては大変厳しいものとなりました。重い荷物と重い足取り・・・・・・・・。何回かの渡渉、岩場の連続。

テッ場にある小屋が見えた時の嬉しさは格別ですね。

そして、ここからは全てが初体験でした。テッ場設営(場所、ポールを通し方、石への結び方)、テッ場での食事(バーナ、コッフェル、食器の使用、片付け)、テッ場での睡眠(エアマット、シュラフの使用)、さて寝れるのでしょうか？案の定、寝れてな～い。メンバーの皆様、設営手順、装備、マア等いろいろアドバイスいただきありがとうございました。

8月10日 晴

4時起床、朝食後、不必要な装備をテッ場に残し、ザグザグに切り替え、槍ヶ岳山頂に向け出発、ザグが軽いせいか、なぜか昨日より足取りは軽い。憧れの北アルプスのシンボル、槍ヶ岳の姿を求めて、遠くに見える稜線に向けて、登りに登って、4時間、やっと稜線の飛騨乗越に。そこにはガスで霞んだ槍ヶ岳の穂先がうっすらと。ここまで来たかあと嬉しさがこみ上げえる。



飛騨乗越では W 会長率いる槍ヶ岳縦走チームと合流出来、多くの写真を撮っていただきました。ありがとうございました。

山頂の霧が抜けるのを確認して、いよいよ、岩場、鎖場、垂直梯子へ取り付き、頂上へ、なかなかの高度感です。最後の梯子を登り切ると山頂に到着、しばし、感動とその景観を堪能することが出来ました。登ってよかったあ。



約 20 分、頂上の景観を堪能し、槍ヶ岳山荘で一休み。そこで、時間的な余裕から、気持ちのいい北アルプスの稜線を歩くという楽しみを実現しようと、南岳経路でテッ場まで帰るとの選択をして、稜線を歩くことになりました。しかしながら、途中の大喰岳にて、大越リターより以後の判断を求められ、私から「自信がありません」と申し出ると、縦走は中止との決断をいた

だき、計画通りのピストンとなりました。やはり縦走後の下山の体力が読めませんでした。メンバーの皆様にはご迷惑をお掛けしましたが、今の實力では、正しい判断であったと思います。

長い長い下山路、槍平のテニ場に到着した時は、達成感と同時になんとも言えない安堵感が沸いてきました。改めて、気が張っていたんだと気づきました。

この日のビールは本当に美味しいものでした。

そして、登り終えた後のテントでの食事や会話は楽しいものです。星の輝き、疲れと安堵感で早めの就寝ではどうも熟睡？したようです。

8月11日 晴

4時に起床、朝食後、テント撤収。

5時30分、新穂高温泉へ向けて下山開始、都会の喧騒をすっかり忘れていた、この3日間に感謝しつつ、約4時間かけて新穂高温泉に到着、もう歩かなくていいんだと思うととても嬉しい気持ちになりました。楽しくも勿な山行でした。

その後、3日間、お風呂に入っていない体を日帰り温泉でリフレッシュし、普通の人間に戻してから、帰路へ。

18時30分 松戸駅着

今回の山行は多くの驚きと刺激を私に与えてくれました。未経験から来るいろんな疑問が実体験で解決され、またその中で、登山における装備、技術、マナー、手順をレクチャーしていただけたことは、これからの山行に大変有益なものとなりました。

本当に登れるんだろうか、との思いの中、大越リーダーの強いリーダーシップと猛者な女性陣の温かい励ましでなんとか槍ヶ岳登頂の切り切りすることができたと思います。

深く感謝申し上げます。

お知らせ

全国連盟総会・千葉県連盟総会についてお知らせをします。

◆ 全国連盟総会について

- 1、日 時 2014年 2月15日(土)・16日(日)
- 2、場 所 晴海グランドホテル
- 3、傍聴者 希望者は、広木まで連絡をおねがいします。
- 4、永年功労章 入会20年以上の会員を推薦してください。

◆ 千葉県連盟総会について

- 1、日 時 2014年3月2日(日) 12時より
- 2、場 所 千葉県スポーツセンター(予定)
- 3、代議員 各会より10名に1人、10名未満の会は1名選出。
- 4、総会準備
 - ・議案書：1月理事会で討議、2月第1週に代議員分を各会に発送。
 - ・役員選出：2月理事会で最終決定。

☆ 今回の総会の中心議題

- ・ 各会の現状を確認し、県連盟は何をすべきかの意思統一。
- ・ 事故防止の取り組みの推進。 ・ 組織強化活動の確認。

北アルプス/槍ヶ岳 (3, 180m)

新穂高温泉～槍平～槍ヶ岳～大喰岳 (3, 101m)・中岳 (3, 084m)・南岳 (3, 032.7m)～槍平～新穂高温泉

川上周作記

2013年8月9日(金)～11日(日)

メンバー：CL 渡辺敦子、SL 上田一敏、石塚倫康、岩田絵弥嘩、加藤周平、川上周作、橋詰幹雄

コースタイム

8月9日(金) 天気 晴れ

松戸駅千葉銀前 6:20 → (自家用車2台) → 新穂高温泉駐車場 14:00 / 14:30 → 槍平小屋・テント場 18:30 (泊)

8月10日(土) 天気 晴れ

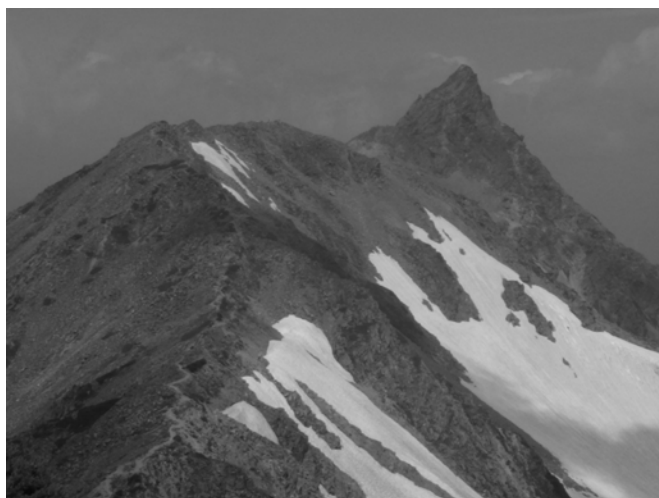
槍平小屋・キャンプ場 4:40 → 千丈乗越 7:05 → (7:15) → 飛騨乗越 8:40 / 9:00 → 槍ヶ岳 9:35 / 9:55 → 大喰岳 11:20 / 11:35 → 中岳 12:15 / 12:30 → 南岳 13:45 / 13:55 → 南岳小屋・テント場 14:20

8月11日(日) 天気 晴れ

南岳小屋・テント場 4:40 → 槍平小屋 8:10 / 8:30 → 新穂高温泉駐車場 12:30 → 温泉 → 松戸駅前

費用等(一人当たり) 車関係 ¥7,540 駐車場料金 ¥1,140 高速道路代金 ¥2,800
テント場料金 ¥1,200 テント借料 ¥300 食費(ガス代含) ¥1,000
その他 南岳テント場 水: ¥200/1L

8月9日(金) 天気 晴れ



大喰岳より槍ヶ岳を望む

「松戸山の会」に入会してはじめての山行となる。会で「テント教室」と呼ばれている。事前に、メールで「登山の為の運動生理学」の文章が送られてきて、その後、回答用紙も送られてきた。テントの中で回答を出し合うとの事。

どうやら、同日日程で同じ会の槍ヶ岳を目指しているチームのO氏からのものだ。大変優秀な方がいるもんだと感心?した。



今回のメンバーの年齢構成は、31、33、36、56、63、65、67歳の7名、女性2名です。私川上は、「高齢者」になったばかりの65才。終始若者は、元気でした。勿論、CLの渡辺さんの元気なこと、聞いていたとおりの。いや、それ以上でしたが。

遠い春日部市から参加した人も含め、全員時間どおりに集合して、車2台に分乗して6:20出発。金曜日でしたが、首都高速が混んでいて現地新穂高温泉駐車場に着いたのが14時になってしまいました。ひょっとしたらヘッ電の厄介になるかなと思いつつ、天気も良いので準備を急いで出発14:30。私も久しぶりのテント泊の縦走となりました。60Lの新しいザックを購入して、事前トレーニングして参加した方もいました。穂高平小屋までは、車止めのゲート、近道があった。この穂高平にトイレもありトイレ休憩15:08。歩きやすい広い道を歩いて白出沢に着く16:00。ここには、登山者も使用して下さいと標示があるトイレと椅子まで用意してくれている。この沢の工事が大規模に行われて

いた。休息後、これからいよいよ山道に入る。途中は、樹林帯で木の根も出ている緩い登りの山道だ。滝谷出合避難小屋少し手前で休息。滝谷出合避難小屋の脇を17:10通過。しっかりした避難小屋だ。小屋を少し登ったところで、沢に掛かっている橋を渡る。1時間程歩いたところで休息。この沢沿いの左手側には平らな所が見える。あれが槍平かな？もう一息だ。雨も降らず、日差しも夕方なので助かる。

やや急な道を登りきった処に槍平小屋があった、18:30着。ここまで歩き出してから休息を入れて4時間。小屋の奥にテント場があった。水が豊富にある。トイレもテント場近い。既に多くのテントが貼られている。ジャンボテントと1人用の二張を張る。渡辺氏は、コック長も兼ねているベテランという感じ。言うまでもなく小屋からビールを買ってきて乾杯！！夜中に出ていた星、天の川は素晴らしかった。明日も晴れだなと。

8月10日(土) 天気 晴れ

3時起床。朝食、テントをたたんで4:30出発。ヘッ電は無くても歩ける明るさだ。飛騨沢に沿って登る。開けて来て、やや岩もゴツゴツ出てきたところで休憩。その後、引き続き登ったところで多くの人が休んでいた(6:34)。槍ヶ岳・槍平・千丈乗越との分岐だ。この辺は、高山植物の花が咲き誇っていた。キンポウゲ、ミヤマキンバイ、ヨツバシオガマ、ウサギギク、……と。飛騨乗越が見えてきた。槍の穂先だけが見えた。飛騨乗越に着いて、休憩。大福を頂いた。槍ヶ岳が、時々、ガスの合間から顔を出す。



ザックを置いて、槍ヶ岳の頂上を目指そう。槍ヶ岳山荘の前を通過して、いよいよ槍ヶ岳の穂先に向かって岩場を登る。さほど混んでいなかった。途中より登り・下りのルートに別れている。皆んな慎重に登る。クサリがあったり、最後は、梯子だ。雪や雨でも降られたら大変だ。ハシゴを登りきったところで、先行していた渡辺 L が、一人一人の写真をパチリ！！頂上の祠のところで、はじめての登頂とのこともあり、若手は「槍ポーズ」をして、とても喜んでいて。北鎌尾根も覗けてラッキー。

同じ「松戸山の会」の大越 L の 4 名も登ってきた。最後のハシゴの所でも余裕のポーズをとる。記念写真を取って慎重に下山。飛騨乗越に戻って、ザックを担いでいざ、南岳のキャンプ場に向かう。30分程歩いて、大喰岳に着く。槍ヶ岳の素敵な全容が見えて、皆さん、感激してカメラを向ける。近くでは、大きな三脚を構えて写真を撮っている人も。あとは、大喰岳 (3,101m)、中岳 (3,084m)、南岳 (3,032m)、南岳の小屋にテント場があるし、稜線沿いに行けばいいんだと気楽な気持ちになって歩き出す。これが「最後の登り」であとは、楽だと思っていた

が、とんでもない、又、登りがあると落胆。これが、疲れを呼ぶ。

2万5千分の1の地図を見ているものの、稜線上の細かい等高線が見つらなくて大雑把に見ていたんだ。私の山友達に頓所武伸さんという人がいるが、「山の雑学百科」(「岳人」編、東京新聞)の「地図遡行法」(p22)という記事の中に「山ヤの高齢化は避けがたい事実、わが会とても例外ではない。『どうしても等高線が読めない』と拡大コピーして持ってきた者も現れてきたときはびっくりした。」と載っていた。私もいよいよ必要な。

南岳 (3,032m) ピーク近くに小屋とテント場があって良かった。14:20着。夕方まで時間はたっぷりある。テントを張り、小屋横にあるテーブルに着いて、早々キャンパイ！！テントの中で夕食。渡辺 L の手際の良い夕食作り。帰宅して、松戸山の会の HP を見ていたら、山の食事のレシピが写真入りで載っていた。山の会の HP では珍しい。若いメンバーの男性が夕食用ハンバーグを朝10時から作って、納得が行かない味に自ら怒っている話も出たり。初めて一緒に登ったメンバー同士がワイワイ。風が強く、寝る時間でもテントがバタバタ。

8月11日(日) 天気 晴れ

今日も3時起床、4:40テン場を出発。

今日も天気に恵まれている。

昨日までと違って、途中、雪渓が残っていて滑らないように慎重に登ったり、はしごを登った後、稜線に出たが、両側が切れ落ちている歩きとなった。なかなかスリルがある。稜線には木道がかかっていたり、笠ヶ岳をはじめ山々が見える。



松戸駅前解散。

それにしても、あれだけ大きな荷物を持ちスタスタ歩くスリムな渡辺 L、疲れも見えない最年長の上田 SL。ジャンボテントを担ぐ元気な若者達。

世界の 8 千 m を超える
1 4 座を全て登った

北穂高の小屋、大キレットも見える。北穂高岳を見ていたのは、6 時頃かな。自宅に帰って新聞では、11:30 頃、52 才男性が北穂高岳 (3,106m) で滑落死との記事。あの 5 時間程後に、事故があったなんて。稜線から、下の方に「槍平のテント場」が見えた。結構、急な下山道だ。このルートを下から登って来る人がいる。お母さんと小さな女の子も登ってきた。大したもんだ。

途中、何度か休憩をしたが、雪も残る南沢で休憩。槍平小屋 8:10 着。これからは、9 日に来たルートに戻る。ルート図では、ここから新穂高温泉駐車場まで 3:30 となっている。危険な場所もないので、ゆっくり 8:30 槍平小屋をスタート。滝谷出合避難小屋 9:05。穂高平小屋 11:30。新穂高温泉駐車場 12:30 着。駐車場近くの風呂♨️に入り、昼食、帰路に着く。

日本人登山家竹内洋岳 (ひろたか) (42 才) さんは、酸素ボンベを使わず、ポーターも雇わない厳しいルールを自らに課しているという。身長 180cm、体重 62~63kg、肺活量は人並みで、筋肉量も「多分、山に登らない人より少ない」。

装備は極限まで軽くするが「素材が進歩し、軽量化も限界」。それなら体を軽量化するしかない。筋肉や贅肉をそぎ、酸素の消費量を減らす。筋肉や贅肉をそぎ、酸素の消費量を減らす。筋肉が果たす保温やエネルギーは、効率的な補助食品でとる。「山は頭で登る」が持論。ルートや天候などあらゆる場面を想定し、自分を置く。(朝日新聞)

さー、どーしたもんだらう? 「贅肉をそぐ」ことを先ず目指す??

機関紙委員会よりのお知らせ

ちばニュースの発行は、千葉県連機関紙委員会が担当しています。毎月 1 日の発行を目標に取り組んでいます。当月号の投稿〆きりは、25 日を目安にお願いしています。山の会の機関誌らしく、山行報告・山情報・とっておきの山紹介・・・など等山・自然に関する投稿をお待ちしています。

☆ 問い合わせは：：千葉県連ホームページ・事務局への問い合わせまで

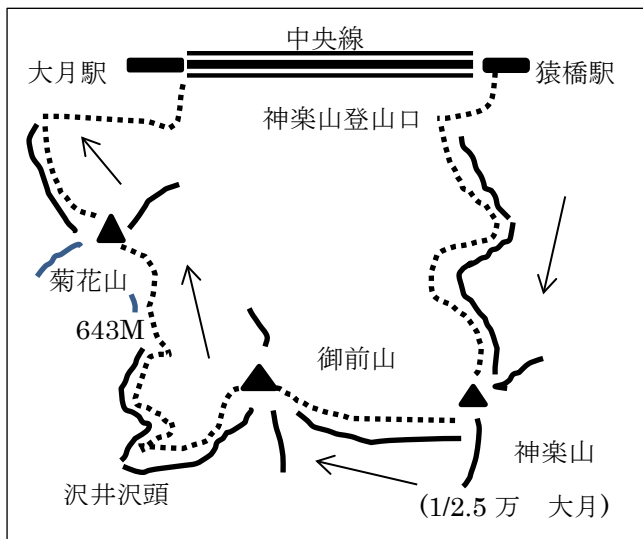
第2回・東葛地区交流山行・菊花山(10/31)

かがりび山の会／山本 尚徳

10月31日の秋晴れに第2回東葛地区・交流山行を菊花山で行いました。猿橋駅～大月駅への周遊コースで歩行時間は4時間余りと少な目ですが神楽山・御前山・菊花山の3座を縦走し、岩場や大下りありの変化に富んだコースを歩き、眺望は抜群、富士山の雄姿を望む面白い行程です。

コース

柏駅→新松戸駅→西国分寺駅→八王子駅→猿橋駅…登山口…神楽山…御前山…沢井沢頭…菊花山…大月駅(歩行時間約3時間50分)



松戸山の会4名・まつど山翠山5名・シリウス1名・かがりび山の会3名の合計13名の参加者で山行は終始和やかに楽しみ、新松戸で懇親会を行い交流山行の親睦の目的は果たされたと思います。

今後は交流山行を通じての進展が課題となります。

次回は、まつど山翠会の企画で来年6月頃を予定しております。



参加された各会の感想

まつど山翠会

第2回目の交流山行も、また楽しい山行でしたね。

低山なのに展望がとてもよく、短い歩程ながら、変化のある道でした。秋の雑木林が心地よく夏山とはまた違う、なんだかまったりしできましたよ！

笑いながら山を歩くのっていいもんですね～。

みなさんの心遣いが心にしみましたあ・・・。

私も少しは優しくなれたのでしょうか？今回も色々とお世話になり、本当にありがとうございました。

さて、次回はどこにしましょうか？みなさん！お楽しみに。(南)

シリウス山の会

かがりび山の会の皆さま、企画担当お疲れ様、そしていい山でした。

ここ5年ぐらいの会報「いわひばり」をめくり返して見たが、菊花山は見つからなかった。最近の物忘れの激しさからすれば、仮に行ったとしても行った事すら当たり前のように忘れ記憶には残っていない。

裏を返せば、常に新鮮な山歩きを味わっている事になりますが、なんか危ない歩きだ。二次会では以前お世話になった方とお会いし、酒を酌み交わす事が出来た。これも交流山行のおかげと感謝しています。(佐藤)

松戸山の会

東葛地区交流山行「菊花山」に参加しました。この山は知りませんでした。

大変アップダウンの山でしたが、天気良く富士山や稚児落しの岩壁も眺められ所々紅葉していました。又、季節を変えて行って見たいと思います。

帰りの反省会にお誕生日を祝って頂き有難うございました。(佐川)

いろいろと忙しくてじっくりと取り組まないのですが、これからも折角何かの縁で同じ県連に所属していますので、このような形でいつまでも交流を続けていきたいですね。一回りも二回りも輪を広げていきたいものです。(渡辺)



2013 事故防止・経験交流集会の報告

教育遭難対策委員会 岡田

去る11月9-10日、船橋県民の森「さざんかの家」にて、2013 事故防止・経験交流集会在開催されました。

「事故の再発防止」と「各会の交流」と「セルフレスキュー講習」を目的とするこの集会是2009年より始まり5回目の取り組みとなりましたが、本年は15団体（*）計98名の参加を得て盛況裡に実行出来ました。

*山の会「岳樺クラブ」 松戸山の会 千葉こまくさハイキングクラブ かがりび山の会 ふわくハイキングサークル 船橋勤労者山の会 山の会らんたん 東葛山の会 ちば山の会 まつど遠足クラブ 1年さくら組 シリウス山の会 茂原道標山の会 千葉民医連山を歩こう会 市川山の会 岳人あびこ

今回は、元気象庁長官（元松戸山の会）小野氏に「山の気象」の講演を頂き、「雲との仕組み・雷を避けるには・平地と山岳の違い」等で知識を拓ける事が出来ました。更に「高層天気図」等への理解を深める一助になれば幸いです。

また、各会より発生事故の詳細報告を受けましたが、夫々の会の実情を踏まえつつ更なる工夫が必要と判断され、継続した取り組みの必要性を再認識しました。

加え今回は、最近の登山ブームを反映しての新入会員の大幅増に対する取り組みを「ちば山の会」「松戸山の会」「船橋勤労者山の会」より報告を頂き、「新入会員の目的意識の変化」「会定着への工夫」「受け入れ側の負担増」等の共通の悩みと共に、HPの重要性を再認識し、また更なる改善へのヒントとなったと推察します。

二日目は救助隊主催にて、前庭で「ハイキング層向けセルフレスキュー講習」の実技講習をグループ分けして行った。救助隊での事前の取り組みを踏まえてスムーズな進行であり、また従来に増して、講師・受講者共に若年層が以前より大幅に増加しており、今後の展開が期待される内容で終了した。



講習会・経験発表 風景



山の気象・講師小野先生



熱心に聴く 受講生

遭難事故が急増しています。全国連盟での死亡事故も10名を超えてしまいました。千葉県連での事故は、9件が報告されています。転倒が原因の事故が8件あります。その中には、頭蓋骨骨折・脳挫傷、腓骨骨折、手首骨折2件等の重傷事故があります。日頃のトレーニングで、バランス感覚、歩行技術等の基礎体力を鍛えて下さい。

11月「NPO法人ゆう」11月支援活動報告

- 1、日時 2013.11.23(土)～24(日) 晴れ
- 2、参加 21名(ちば労山会員のほか一般から3名参加されました)
- 3、活動場所 石巻牡鹿半島谷川浜
- 4、活動内容 ホヤの種付け準備作業、引揚げたホヤ吊りの異物除去、牡蠣筏の錘作り作業

谷川浜の漁師、渥美さん・馬場さんの作業所を中心にホヤ吊りの牡蠣殻への穴あけ・紐し作業や貝の選別作業、海中に投じたあと一旦引き揚げてムール貝やホヤ生育に支障となる異物の除去作業、それに未経験であった牡蠣筏に取付ける錘の吊り紐通しの作業を行いました。

いままで牡蠣殻への紐通し作業は何度も経験していますので、熟練度が上がってテーブルに積み上げられた牡蠣殻の山が、



どんどん崩れていきます。異物の除去作業は海水を流しながらの水場での作業なのでゴム引き合羽など防水衣を付けての作業です。錘の紐通しは牡蠣養殖筏に取付けるものですが、小さな穴に吊り紐をかなり強引に通すので結構大変だったようです。

これらを23日全日と24日午前いっぱい行いました。

【トピック1 鮭の産卵】

谷川浜には浅く細い小川が海に注いでいますが、この小さな流れに鮭が産卵に登ってきます。背ビレが水面から出てしまうほどの浅い流れなのですが、身体をくねらせて必死で遡っていきます。橋下の深みでは、頭部に傷を負いながらもまだ元気な鮭は、バチヤバ チャと激しく水を蹴っています。乾いた小砂利の上では一生を終えた多くの枯れた魚体が散乱しているのです。

【トピック2 鹿の救出作戦】

牡鹿の名のとおり、この半島は多くの鹿が生息しています。作業場の近くの自然に陥没した径2m、深さ2mほどの穴に鹿が落ちてしまいました。いつ落ちたのか分かりませんが、まだ元気で盛んに飛びあがって逃げようとしませんが縁を越えられないのです。皆で何とか脱出させようと、土を入れ床を上げパレット等を入れて鹿にジャンプを促すのですが、どうにも人の気持ちは伝わりません。穴を埋めてやろうと近くの道路工事の方にブルを動かして来てもらいました。

結局、この作業者が持っていた幅広のテープに輪を作り鹿の首に掛けて引き揚げました。助けられた鹿君は、礼も述べず、山の方角へすっ飛んで行きました。

ちば労山「ゆう」 ボランティア活動報告

ちば山の会 辻本 喜代志

11月22日、深夜の東北道から牡鹿半島に入り、谷川浜に向かう。うつらうつらと舟を漕いでいると、「鹿だ、鹿だ！」の聲が上がり、ヘッドライトに数匹の鹿が浮かび上がる。その声に起こされ、何となく頭が回り出した頃、周辺に1軒しかないというコンビニで、朝と昼のご飯を買いだし、午前2時過ぎ、作業小屋に着いた。既に到着のパーティは就寝中。我々も早々に寝袋に潜り込む。

明けて23日は何度目かの結婚記念日だが、妻は恩師の墓参り。夫は遠く南三陸のボランティア。

8時の集合前に鮭が遡上するというので、栽魚センター跡地に行ってみた。建物は未だ復旧されず、護岸工事が進んでいるだけ。ここの正式名称は宮城県栽培漁業センターといい、震災前にはここを本拠地として、アワビ、ホッキガイなどの稚貝と、ヒラメ、クロソイ、ニシンなどの稚魚を育成し、地元と研究機関が手を携えて、資源管理型の漁業への挑戦が始められたところ。

震災前の町の取り組み

牡鹿町では、新たに策定された「牡鹿町第三次総合計画」に基づき、資源管理型漁業や、先端技術などを活用した漁業振興に積極的に取り組むとともに、「釣る・見る・食べる」などの体験ができる観光レクリエーションとタイアップした観光漁業の振興にも取り組んでいます。

周辺を見渡すと、人がいない！生活の匂いがない！
波静かな入り江には1隻の船が浮かんでいるだけ。
道路は工事車が走っているだけ。

鮭が遡上する川も川幅は小さく、水門も破壊されていて、鉄筋は剥きだし、水量も少ない。荒れた川にも関わらず、産卵の営みを見ることができた。

産業の復興なくして生活はない。しかしながら人口は1/3に減ってしまった。労働力も無いに等しい。
仮設住まいの中から少しずつ立ち上がり、栽培漁業に取り組んでいる被災者の方々。こんな現状を、もっと多くの人が知ってほしい。



震災前、ここには60世帯があった

ボランティア作業が始まった。牡蛎殻に紐を通し、ホヤ棚を作っていく作業。ホヤの種付け作業の一環である。1.5mほどの紐2本に、内側、外側と貝合わせのように通していく。知らず知らずに作業服が汚れていく。2本組、120セットが、1パレットの単位と聞いた。9人のボランティアが、1日5時間半の作業で、450セットほど完成した。4パレット弱だ。



ホヤの紐通し作業



休息の時間

私はホヤが好物だが、東北の北部沿岸以外あまり知名度がない。どうして産業になるのかホヤのことを調べてみた。以下はWikipediaからの引用である。

ホヤは、日本、韓国、フランス、チリなどで食材として用いられている。

日本では主にマボヤ科のマボヤと、アカボヤが食用にされているが、古くからホヤの食用が広く行われ多く流通するのは、主に東北地方北部沿岸であり、宮城県では酒の肴として一般的である。東京圏で多く流通するようになったのは近年である。中部地方以西・西日本各地では、今なお、ごく少ない。マボヤは、日本では太平洋側は牡鹿半島。日本海側は男鹿半島以北の近海産が知られていて、天然物と養殖により供給されている。鮮度落ちが早く、新鮮なものは臭わないが、鮮度が落ちると金属臭のような独特の臭いがあり、好き嫌いが分かれる。鮮度の管理が難しい。独特の風味が酒の肴として好まれ、刺身、酢の物、焼き物、フライとして調理され、塩辛、干物に加工される。

牡鹿半島のホヤは主に韓国へ輸出されているとの事。栽培漁業が復興され、地域が活性化されれば、人々も戻ってくるはず。一企業へのサポートと批判の声もあるが、復興のリード役となり得る「地域経済の中核」を形成する中小企業を支援してこそ、ボランティアの喜びがあるのではないか。

作業をしていると、鼻歌が聞こえ出す。知らず知らずに自分も口ずさんでいる。いつの日か谷川浜も復旧し、栽培漁業が活発になり、働く女性たちがキャツキャツ騒ぎながら明るく作業をしている。そんなドラマチックなシーンが思い浮かんだ。そんな日が早く来れば良いのにね。

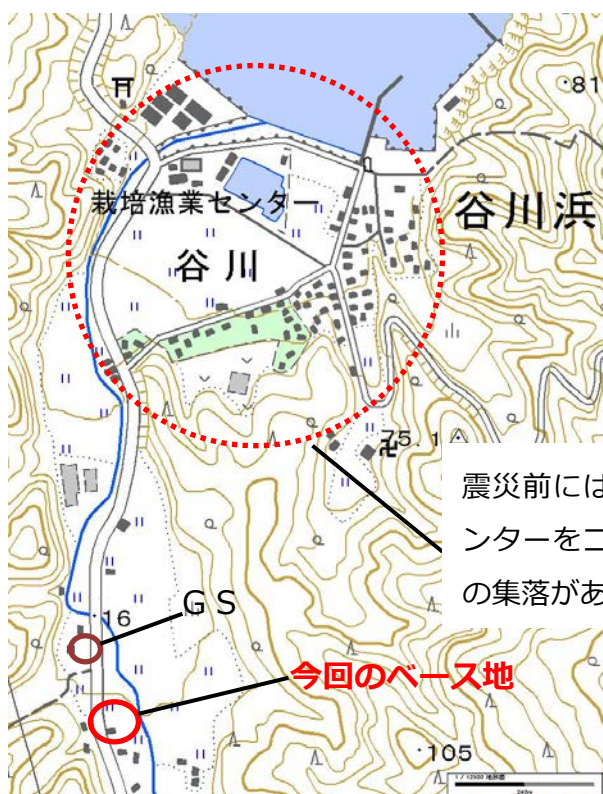
3時半に作業は終了。一旦、宿舎の作業小屋に戻り、入浴施設がある牡鹿交流センター「ほっとまる」に向かう。牡鹿交流センター「ほっとまる」は平成17年11月にオープン。施設は高台にあったため、震災を逃れた。石巻市のゴミ焼却施設の余熱を利用した入浴施設や温水プールがあり、一般にも開放されている。病院、特別養護老人ホーム、保健福祉センターも併設され、震災前の裕福だった自治体の元気が窺える。しかしながら土曜日にも係らず、図書館には子供の姿はなく、入浴客も我々ボランティアだけ。浴槽からの眺めは、逆光に輝く穏やかな海。

入浴を済ませ帰路でコンビニに寄り、今夜の懇親会用アルコールを仕入れる。今宵のメニューはちゃんこ鍋、野菜炒め、釜炊きご飯等々。支援先の漁師さんからヒラメ、アイナメの刺身、ワタリガニ、カキ、ドンコなど地元で獲れた海産物が差し入れられた。

今回の参加者21人が、テーブルを囲み、ちゃんこ鍋に舌鼓を打ちながら、自己紹介の声が廻る。船橋山の会、ふわく、君津ケルン、こまくさ、ふわく、ちば山、かがりび、民医連東京共済山の会、NPOゆう会員の9団体が集った。同じ意義を持つボランティア同士が、一日の労働を終え、酒を酌み交わすのは素晴らしい。

翌朝は6時頃から朝食、8時に記念撮影、8時半から作業開始と打合せ、早々に寝袋に潜り込む。

11月24日 快眠、快通、快食で朝を迎え、7時にはスタンバイOK。8時の記念撮影まで時間があるので周辺の散歩。住宅はなく荒れた造成地が広がっている。海から1kmほどガソリンスタンドの看板には、5mほどの高さに「津波の高さ」とメモリーがあった。高みから写真を撮ろうと急斜面を登ってみた。切り株を掴むと抜ける。草や笹はしっかりと根を張っていた。道路は時々、護岸工事の車が走るだけ。



震災前には栽培漁業センターをコアに60軒の集落があった

今回のベース地



海から1kmのガソリンスタンド。この高さまで津波が来た。

8時に記念撮影をし、かがりびのパーティ6人は、ホヤの種付け作業ではなく、別作業に出発した。ちば山を含め15人は、昨日と同じ作業所へ向かう。午前中はカキ殻の穴あけに私と吉田代表。残りの13人はカキ殻の選別作業の二体制。カキ殻の穴あけはドリルを軋ませ、カルシュームのホコリを撒き散らす。数度の支援作業で慣れているのか、吉田代表の手は早い。私がモタモタしていると、3倍ほどのスピードで作業が進んでいる。10時に休息、12時に昼食と時間が進み、事故もなく無事に作業終了時間の3時半となった。今年の支援作業はこれで終わり。ここで自由解散とし、感謝の声に送られ、帰路に着いた。牡鹿交流センター「ほっとまる」で再度の入浴後、開通したコバルトラインで女川に向かい、ビルが転がる被災状況を視察し、慰霊碑に手を合わせた。石巻で土産物の海産物と白謙の笹かまぼこを手に入れ、一路、高速を飛ばした。労山「ゆう」の支援活動は、来年3月から始まる予定で、来年は極力参加できるようにしたい。

記：辻本（ちばやま所属）

石巻市及び牡鹿半島の復旧、復興状況

【住宅について】

石巻市の防災集団移転促進事業は、平成25年10月末時点で全47か所が大臣同意。全体事業費約998億円で進捗されている。内、牡鹿地区は平成24年4月～11月に順次、整備計画が公表された。

●防災集団移転築数

牡鹿地区 12 / 移転対象戸数 834 / 高台・内陸部住宅団地計画戸数 455
谷川浜・祝浜地区は平成24年度中に合意形成され、測量・地質・鑑定が進み、25年12月までに用地買収、設計他を終え、26年1月から宅地造成、公共施設工事にはいり、平成27年度から宅地供給予定。



石巻市の復興状況について平成25年11月に公表

<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10181000/8235/fukko12.pdf>

【漁港について】

●被害状況

市内全漁港（県管理10港、市管理34港の計44港）が被災

市管理漁港の被害額は約692億円（県管理漁港の被害額は約981億円）

防波堤破損流出多数、定置網や養殖施設はほぼ全壊

漁船については、2,762隻（／被災前3,230隻＝85.5%）損失

●復興への取組状況

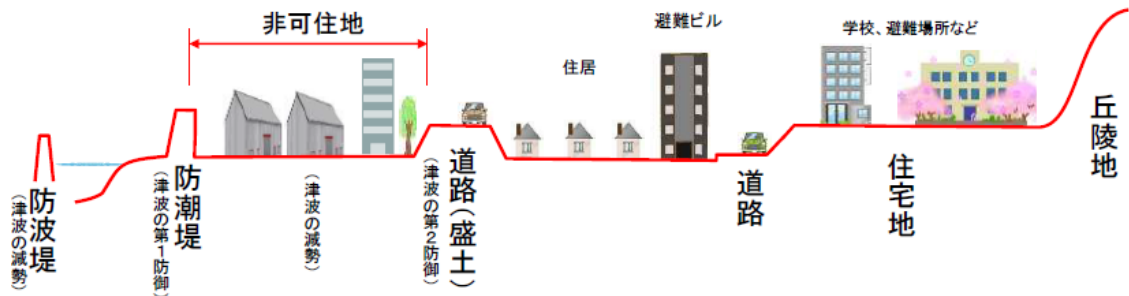
市管理漁港34港（41地区）は、物揚場の応急嵩上げによって、23港（27地区）が常時冠水しない状況

実施設計が整い次第順次発注予定。拠点漁港（18港）は4～5年、地区漁港（26港）は5年を目標に復旧予定

高台の無い市街地の復興イメージ

災害に強い街づくり

二重の防御（堤または道路）で津波を防御し、住居そして学校や病院を守る



【宮城県南部地図】



【災害支援地】
石巻市牡鹿半島
谷川浜

NPO法人「ちば労山ゆう」

財政活動のお知らせ

NPO法人「ちば労山ゆう」は、今年度も月一回の支援活動を行ってきました。4月より11月までの参加者は、延135人になります。

参加者の中には、毎回参加する会員も多く、参加費の負担も高額になっています。せめて、交通費については全額「ゆう」から負担したいと思っています。

「ちば労山ゆう」では、参加費の個人負担を少しでも軽減するために、財政活動に取り組んでいます。支援活動の継続には活動資金が必要です。支援活動を支える財政支援をお願いします。

各会の皆様、のご支援をいただき大きな成果をあげています。引き続き販売活動に取り組んでいきますので、一層のご協力をお願いします。

今後も、の財政活動にご協力をお願いします。

支援物資の紹介



とろろこんぶ



すき昆布



おさしみわかめ



さしみこんぶ



くきわかめ

おさしみわかめ・さしみこんぶは、生商品です簡単に水洗いして水をきって、サラダなどがおすすめです。ポイントは、軽く水切りする事です。力まかせはダメ。

くきわかめは、塩出しをして、油いためが人気です。私は、おかかと好みのドレッシングでビールは最高だ。

とろろこんぶ・すき昆布は、軽くて美味しいです。山食の献立に一品加えて下さい。

- ・ふわくハイキングサークルの皆さんには、毎月大きなご協力をいただいています。
- ・こまくさハイキングクラブの定例会にお邪魔して出張販売をさせていただきました。
- ・12月に入り、・きみつケルン山の会・松戸山の会からもご協力の連絡がありました。有難うございます。

連絡先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ：事務局への問い合わせ

：広木 国昭 danphiro@zpost.plala.or.jp 090-8316-2020

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまで
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、ご意見
問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページからも
入会出来ます。
・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
・入会情報（11月末）
正会員数 109名
賛助会員数 165名
合計 235名
常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
NPO「ゆう」支援活動のお知らせ
3月15日（土）・16日（日）
に実施します。
12月・1月・2月の支援活動は
お休みします。

支援物資は常時販売中です。
下記アドレスに連絡を！

三陸産・気仙沼直送の

「おさしみわかめ」

「さしみこんぶ」

「くきわかめ」

「すき昆布」

「とろろこんぶ」

申し込み・問い合わせは、

下記までお願いします。

・支援物資担当 広木まで

danphiro@zpost.plala.or.jp

090-8316-2020

県 連 活 動 予 定 表

12月	行事予定	1月	行事予定
1 日		1 水	
2 月	女性委員会(17時)	2 木	
3 火	県連役員会	3 金	
4 水	ハイキング委員会(東大演習林)	4 土	
5 木		5 日	
6 金		6 月	
7 土		7 火	県連役員会
8 日		8 水	
9 月		9 木	
10 火		10 金	
11 水		11 土	
12 木		12 日	
13 金		13 月	
14 土		14 火	
15 日		15 水	
16 月	救助隊定例会	16 木	県連理事会
17 火		17 金	
18 水		18 土	
19 木	県連理事会	19 日	
20 金		20 月	救助隊定例会
21 土		21 火	
22 日		22 水	
23 月		23 木	
24 火	教遭委員会	24 金	
25 水		25 土	第30回房総ロングハイク
26 木		26 日	"
27 金		27 月	遭対委員会・NPO役員会
28 土		28 火	
29 日		29 水	
30 月		30 木	
31 火		31 金	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所には常駐者はいません)

発行責任者 : 吉田 哲治

編集責任者 : 広木 国昭

問い合わせ先 : 千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ